

指導方法等の改善計画について (国語科)

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 67.7%, 県 69.2%)

対県比 97.8%

学力定着実態調査 本年度正答率

本校 75.2%
全国 73.5%

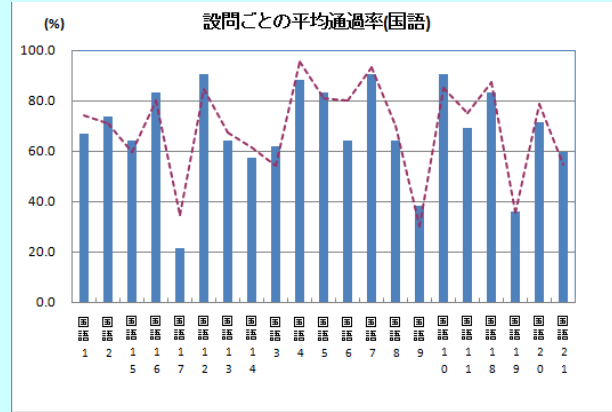
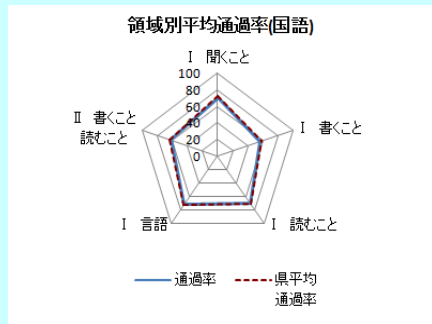
対全国比 102.3%

本年度の結果について

「書くこと」における、広い範囲から情報を集め効果的に活用することが全体的に苦手である。また、条件に即して構成を工夫して書くことが困難であり、無答率の高さが目立つ。
文法についての整理が必要であり、文の組み立ての中での主語と述語の関係が理解できていない。述語に対応する主語を答える問題では、広島県と本校の正答率に 15.5%の開きがあった。

領域別平均通過率

設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題
本校 77%
全国 77.4%
県 78%

B問題
本校 73%
全国 72.2%
県 73%

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 103%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(正答率 64.3%) (対県平均-15.5%)

「主語・述語の関係」について、主述の関係がつかめていない生徒が多い。選択肢の中から間違った主語を選んでしまった生徒が 35.7%いる。

【課題2】(正答率 21.4%) (対県平均-13.2%)

「叙述の仕方の確認」について、資料を読み取り、さらに条件に即して分かりやすい文章でまとめることができていない生徒が多い。無答率が 14.3%である。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(正答率 37.5%) (対県平均-21.1%)

楷書と比較したときの行書の特徴として適切なものを選択することができない生徒が多い。書写の知識として楷書・行書という言葉の意味が理解できていないと思われる。

【課題2】(正答率 70.8%) (対県平均-7.5%)

「徒然草」の作品の種類を答えられない生徒が、29.2%いる。教科書に掲載されている古典作品についての知識を忘れていている者が多い。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (80%) 実施後数値 (%)

既習事項を確認し、文法事項を整理させる。

作文や文章でまとめる作業を積極的に取り入れ、主語と述語の対応を念入りに確認する。

【課題2】目標値 (40%) 実施後数値 (%)

授業の中で、複数の資料を用いた対話的な学習を積極的に行う。

条件に即してまとめさせる作業を積極的に取り入れる。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値 (70%) 実施後数値 (%)

書写の指導において、文字の特徴や用語の意味を解説および確認をする時間を多くとる。

【課題2】目標値 (95%) 実施後数値 (%)

文学史的な知識(作品名・作者名・ジャンル・内容の概略)を繰り返し確認する。

テストに既習知識を問う問題を出題する。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 66.1%, 県 66.9%)

対県比 98.8%

学力定着実態調査 本年度正答率

本校 69.9%
全国 68.3%

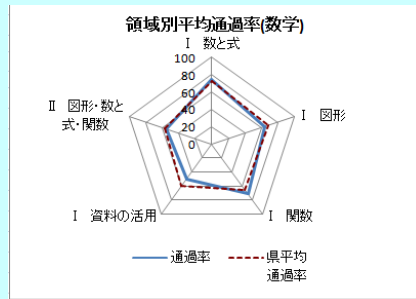
対全国比 102.3%

本年度の結果について

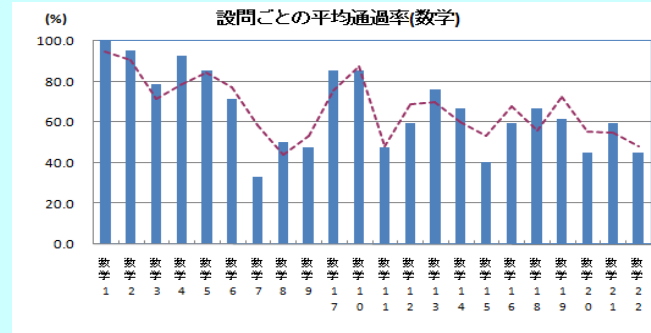
文字式で考える, 関数での事象, 資料を活用した問題など, 日常で考える事ができる事象を考えることが全体的に苦手である。具体的に考え, 文字で表すことが上手できていない。答えばかりを求めようとして, その作業を苦手とする生徒がいる。

より日常に着目させ実感を持たせる工夫を行えるように指導し, 興味を持たせ基礎基本の定着を図る。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 65%
全国 64.6%
県 64%

B問題

本校 47%
全国 48.1%
県 48%

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 102%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(正答率 33.3%) (対県平均-25.2%)

比較量は, (基準量) × (割合) で求められることを理解し, 数量の関係を文字を用いた式で表すことができていない。

【課題2】(正答率 40.5%) (対県平均-12.9%)

資料を整理した表から最頻値を正しく読み取ることができていない。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(正答率 37.5%) (対県平均-12.8%)

与えられた情報から必要な情報を選択し, 事象に即して解釈することができていない。

【課題2】(正答率 62.5%) (対県平均-11.8%)

命題の仮定と結論を区別し, 与えられた命題の仮定を読み取ることができていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (40%) 実施後数値 (%)

数直線図などを用いて, 基準量と比較量の関係を捉える場面を設定する。文字のところに数字をいれて確認する活動を取り入れる。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 (%)

度数分布表や式などを用い, その用語が示す実際の値を1つ1つ確認させるとともに, その値が何を表しているかを再度説明させる場面を取り入れる。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値 (50%) 実施後数値 (%)

どの代表値がふさわしいかを検討する活動を取り入れる。また, 分布の形状が非対称であると, 代表値として平均値を用いることがふさわしくない場合があることを確認する場面を設定する。

【課題2】目標値 (75%) 実施後数値 (%)

証明の問題のとき, 条件から図を複数かき, 図形の性質を見だし, それを命題の形で表現する活動を取り入れる。

指導方法等の改善計画について〔理科〕

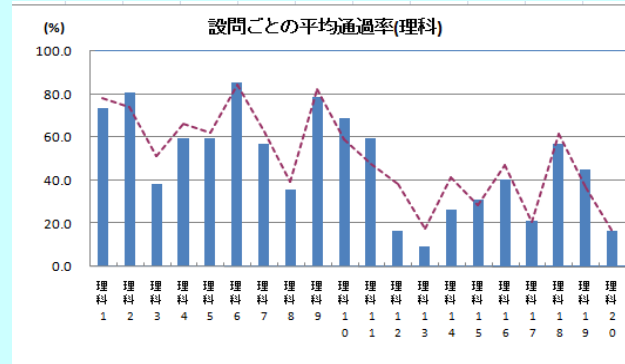
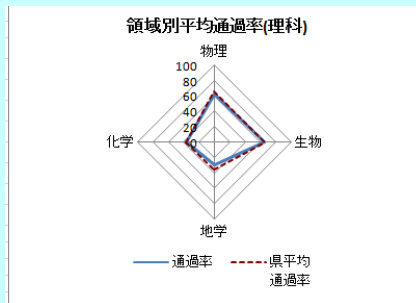
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 48.1%, 県 50.8%)

対県比 94.7%

本年度の結果について

領域別平均通過率

設問1の平均通過率



学力定着実態調査 本年度正答率

本校 56.2%
全国 61.1%

対全国比 92.0%

全体的には、地学分野の通過率が、県平均を下回っている。地学分野は覚える内容が多く、授業時間数も少ないので、知識が定着していない。また、与えられた観察結果から岩石を特定するなど、分析し解答を導き出す力も不足している。

今後は、効率よく地学分野を覚えることができるように、小テストを行ったり、実物を触らせたり、インパクトのある授業展開を考える。さらに、問題の解決に向けて、与えられた条件を用い、筋道を立てて説明をさせたり、書かせたりする機会を増やしていく必要がある。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(正答率 38.1%) (対県平均-13.0%)

力の作用点の決め方や、力の矢印の長さや向きの意味が理解できていない。

【課題2】(正答率 16.7%) (対県平均-21.5%)

火成岩をつくる鉱物の種類と特徴が理解できていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (60.0%) 実施後数値 (%)

何が何に力を加えているのかをとらえさせ、作用点の位置を見つけさせる。

方眼紙を用いて力の矢印の作図をさせ、矢印の長さは力の大きさに比例すること、矢印の向きは力の向きになることを理解させる。

【課題2】目標値 (60.0%) 実施後数値 (%)

火成岩をつくる鉱物を観察させ、鉱物の種類と特徴を確認させる。

小テストを繰り返し行い、鉱物の種類と特徴を覚えさせる。

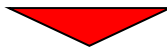
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 67.9%, 県 72.4%) **対県比 93.8%**

本年度の結果について

英語の結果において、タイプⅠは71.6%、タイプⅡは47.0%の通過率となっている。また、「聞くこと」「読むこと」の領域において、英語での問いかけや会話文での適切な応答や、適切な文を用いた会話文を組み立てることに課題がある。また、「書くこと」「話すこと」の領域においては、英語の基本を理解して文を作成することや、適切な文の組み立てることや、自分の考えや気持ちなどが相手に正しく伝わるように表現することに課題がある。

領域別平均通過率

設問ごとの平均通過率



重点課題

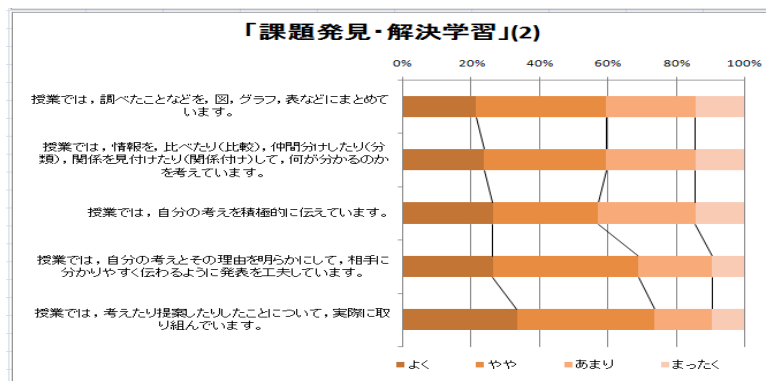
「基礎・基本」定着状況調査
【課題1】 (正答率 38.4%) (対県平均-33.9%)
 6 2② 単語を正しく並べ替えて対話文を完成させる問題
 What + 名詞 + 疑問文 の形が理解できていない。
【課題2】 (正答率 42.9%) (対県平均-18.2%)
 12 自由英作文
 まとまりのある一貫した英語の文章を書くことが出来ない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査
【課題1】 目標値 (55%) 実施後数値 (%)
 語と語のつながりや品詞を意識しながら英作文させたり、和訳をさせたりする活動を仕組んでいく。また、疑問文を作る際に、対話の相手がどのような答え方をしているかを意識して文を作るように仕組む。
 What の後には疑問文の形が来ることは理解しているが、What + 名詞の語順の可能性もあることを理解し、どちらのパターンで疑問文を作るかを意識させていく。
【課題2】 目標値 (60%) 実施後数値 (%)
 自分の事を相手に正しく伝える練習を仕組んでいく。
 自己発信力を高める様な授業展開等、指導の工夫を行う。
 代名詞の使い方を復習した後、自然な流れで文が書ける様な英作文の練習を仕組んでいく。

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

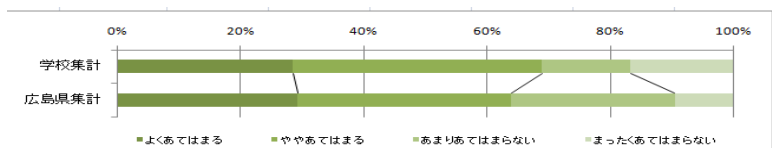
(1) 生活・学習



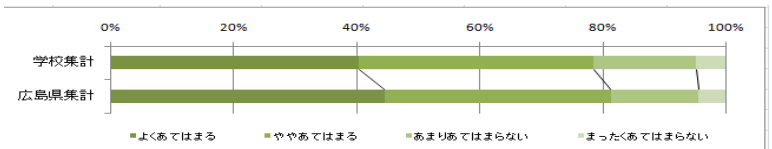
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
整理・分析についての項目の肯定的意見が59.5%と57.0%と2項目とも県平均よりも低い数値である。整理・分析し、自分の意見を授業中発表することができていないと考えている生徒がいる。	授業中・学年の取り組み・行事などで自分の意見を発表する場面を作る。特に、日々の授業では自分の意見を考え、発表する時間を意識させていく。	2	70	生徒アンケート	2月		

(2) 教科

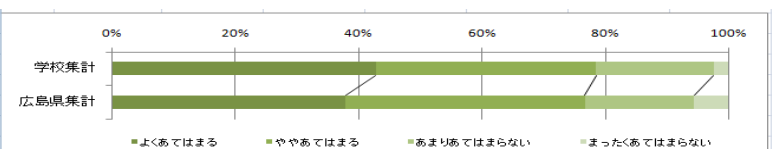
国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



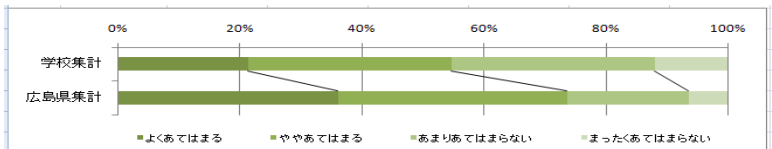
数学の授業では、自分の解き方や考え方と比べながら友だちや先生の説明を聞いています。



理科の授業では、観察や実験を行うときは、その目的は何かを意識しています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	授業の中での学びを振り返りシートの活用で必ず振り返るようにしているが、肯定的な回答が69.1%にとどまっている。	授業の終わりや単元の終わりでの学びや感じたことを文章で整理することを徹底させ、振り返りを全体で共有させる。	2	80	生徒アンケート	2月		
数学	「自分の解き方や考え方と比べながら友だちや先生の説明を聞いています。」の肯定的回答が78.6%である。	自分で考える場面と全体で交流する場面をしっかりと区別し、自分の考えとちがうところは、ノートなどに書き加えるなど工夫をする。	2	90	生徒アンケート	2月		
理科	全体の8割近い生徒が観察や実験の目的を意識しながら行っている。(78.6%)	学習のねらいを明らかにし、興味関心を持って、観察や実験に取り組めるように授業の導入を工夫する。観察や実験の方法を箇条書きにしたり、イラストを用いて説明をさせたりする。	全学年	90	生徒アンケート	2月		
英語	「相手からの質問や依頼を聞くとき、相手が何を求めているのかを注意して聞き、それに答えるようにしています。」の肯定的回答が54.7%である。	質問や依頼の内容を理解しているかを確認しながら授業をすすめる。理解していることをノートに書き留めさせる。質問や依頼に対し、的確な答えが出来る様な工夫をする。	2	80	生徒アンケート	2月		